

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

***アーカイブ室の活動の延長でガイドツアーを始める**

2008年4月1日、国立天文台天文情報センターにアーカイブ室を設置し、歴史の長い国立天文台に残された貴重な資料の収集を始め、国立天文台の外に流出した観測装置などもかなり回収した。この間、1880年ドイツ製のレプソルド子午儀(写真2)が倉庫然となった観測室にぼろきれにくるまれて存在することを発見し、天文台に残っていた子午儀を集め、子午儀資料館(写真1)を開設し、2000年頃観測を終了した自動光電子午環の観測棟に天



写真1 子午儀資料館

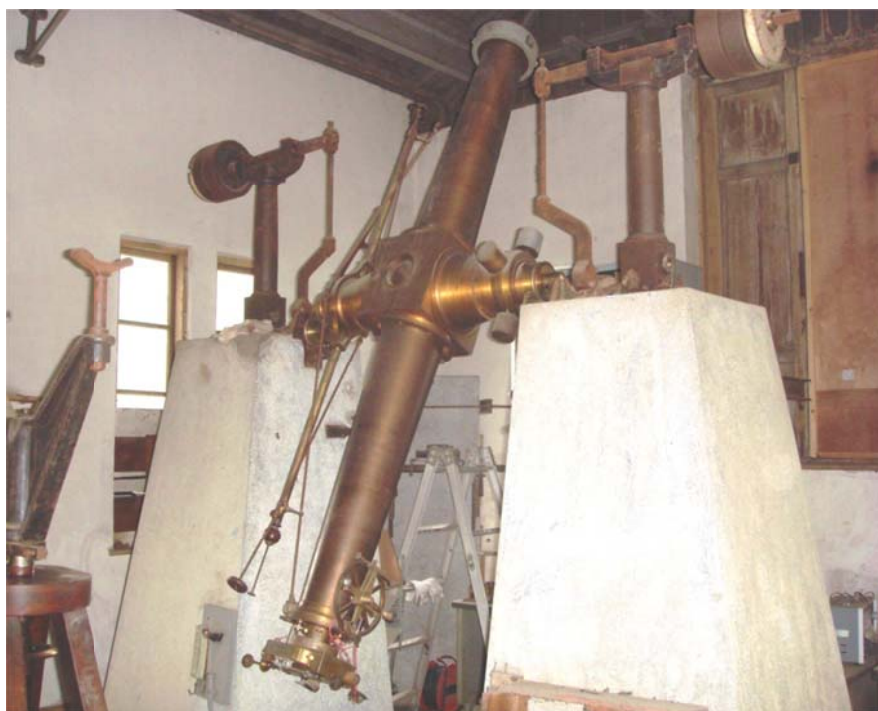


写真2 レプソルド子午儀

文台に残された歴史的な観測装置、測定装置などを集め、天文機器資料館（写真3）を開設した。



写真3 建設当時の自動光電子午環観測棟（天文機器資料館）

そして最近では、太陽塔望遠鏡（写真4）の整備を進め、中に人が入れるまでになった。



写真4 太陽塔望遠鏡のタワー

この太陽塔望遠鏡は昭和 41 年、筆者が岡山天体物理観測所から三鷹キャンパスに異動した際、ドイツ製の配電盤の部品が入手できず死んでいた望遠鏡を復活させた懐かしい望遠鏡である。この太陽塔望遠鏡はドイツのベルリン郊外のポツダムにあるアインシュタイン塔と同じ光学系を、同じ目的で購入したためアインシュタイン塔と呼ぶこともあるが、実際この望遠鏡で働いた人たちは単に「タワー」と呼んでいたこともあり、筆者はアインシュタイン塔と呼ぶのは「名称詐称」とずいぶん抵抗したが、アインシュタイン塔と云えば衆目を集められ、常時公開をやっているグループにいと遂に抗せられなくなり、筆者も見学者の案内等の際には、つい「アインシュタイン塔」と呼ぶようになってしまった。

しかし、天文機器資料館と太陽塔望遠鏡（アインシュタイン塔）は整備を進めたとはいえ、他の常時公開施設のように見学者が自由に出入りできるほど整備されていない。太陽塔望遠鏡は、その姿形が非常にユニークで興味深いこともあり、中に入りたいという希望が多いこともよくわかる。また自動光電子午環観測室を使った天文機器資料館は、そこに展示してある収蔵品を収集した筆者にとっては見学者にぜひ見てもらいたいという希望もあった。

そこで、この春、普及室とアーカイブ室が合同で天文博物館を目指す「普及室・アーカイブ室」に改変されたのを機に、筆者はこの中に入れたい二つの施設に筆者自身がツアーガイドになって見学者に入って見学していただくガイドツアーを提案し、国立天文台幹事会議の了承も得られ、この 6 月から次の要領でガイドツアーを実施することになった。以下がその案内文書である。

ガイドツアーのご案内

国立天文台では、2000 年 5 月から三鷹キャンパスの一部を常時公開して施設を見学していただけるようにし、2007 年 4 月から常時公開領域を大幅に拡大しています。事前に申し込みを戴いた団体には説明員を付けた見学を実施していますが、人気の高い太陽塔望遠鏡（アインシュタイン塔）、天文機器資料館は未整備のため常時公開、説明員付きの団体見学でも中に入っただけの見学はできないでいました。

太陽塔望遠鏡の内部、天文機器資料館の内部の整備がある程度進みましたが、常時公開で自由に中にお入りいただいて見学するまでには至っていません。そこで、今まで中に入れなかった施設もツアーガイドをつけて見学していただけるようにしました。

以下の要領で今まで入れなかった施設（太陽塔望遠鏡室、天文機器資料館）の見学もできる、説明者が同行するガイドツアーを行います。

記

実施日時：第 1、2、3、4 火曜日 13 時 30 分～15 時（約 1 時間 30 分コース）

集合場所：国立天文台正門（雨天決行、よほどの悪天候の場合は中止）

各回募集人数：20 人程度

申込方法：国立天文台 Web サイト（見学案内）：<http://www.nao.ac.jp/kengaku.html>

FAX、往復はがきにより前の週の月曜日から木曜日に申し込みを受付けます。

(1) 登録有形文化財コース (第1、第3火曜日)

1. 第1赤道儀室 (有形登録文化財) ツァイス製 20cm 屈折赤道儀望遠鏡
2. 太陽系ウォーキング
3. ツァイス製太陽塔望遠鏡室 (有形登録文化財: 愛称: アインシュタイン塔)
4. 国立天文台歴史館 (有形登録文化財) ツァイス製 65cm 屈折赤道儀望遠鏡
5. 展示室

(2) 重要文化財コース (第2、第4火曜日)

1. 日本標準時決定の子午儀跡のモニュメント
2. 子午儀資料館 (重要文化財指定: レプソルド子午儀)
3. ゴーチエ子午環室
4. 天文機器資料館 (自動光電子午環棟)
5. 展示室

今までガラス越しの見学でガラス室に面した展示品しか見えなかったが、天文機器資料館には大量の収蔵品がある。主なものは、

望遠鏡が、1) ドイツ・ツァイス製 19cm 自動光電子午環、2) ソ連製人工衛星追跡望遠鏡 (20cmAFU カメラ)、3) 20cm 写真天頂筒 (これは昭和 27 年~63 年の間日本の時刻を決めていた望遠鏡)、4) フランス製プラン子午儀、5) アメリカ製ブラッシャー天体写真儀、6) フランス製太陽単色写真儀、7) 流星写真儀、8) ドイツ製ツァイス 65cm 屈折望遠鏡の撮像装置、9) 日本光学製 20cm 屈折望遠鏡 2 台、10) ドイツ製バンベルヒ一等経緯儀、11) 日本最古のシュミット望遠鏡、12) 乗鞍コロナ観測所にあった 25cm コロナグラフ (解体状態)、13) ドイツ製バンベルヒ 30mm 経緯儀、

測定装置が、1) 昭和 26 年アメリカ製リーズのマクロフォトメーター、2) アメリカ製パーキンエルマーPDS、3) ナルミ製マイクロフォトメータ、4) アメリカ製マン座標測定機、5) 写真濃度測定器

その他、1) クロノメーター3 個、2) 天文台で使われた顕微鏡 4 台、3) ルビジウム原子時計 1 台、4) セシウム原子時計 2 台、5) 経緯儀に用いられていた目盛環 2 個、6) 測量用経緯儀 5 台、7) リーフラー振り子時計 (原子時計が出来るまで使われていた天文時計、日差 0.01 秒の精度) などなど

太陽塔望遠鏡では、5 階のドームの中にはドイツ製の 65cm シーロスタット (現在は日本光学の熔融水晶の平面鏡に置換)、塔部分に 45cm カセグレン式反射望遠鏡、半地下の分光室には、購入当時の 47cm 屈折望遠鏡の対物レンズ、3 つの大きなプリズムを使った分光器、分解能 220000 のグレーティング分光器、イギリス製のヒルガー分光器、乗鞍コロナ観測所で使われていた直視分光器、ドイツ製のツァイス 65cm 望遠鏡用分光器、気球搭載用望遠鏡に使われたフーリエ分光器など多数の分光器が展示されているほか、日食観測に用いられた数々の観測装置が展示されている。これ等については、写真付きで紹介したいが、次の機会に譲る。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp